松代公民館新聞

発行所 松代公民館
編輯兼発行人 館長 佐藤秀雄
毎月三回発行 10日 20日 30日

文化の日(11月3日) 農産物品評会を開く

主催 松代村青年連盟
後援 松代村農業協同組合
後援 松代公民館

国民の祝日十一月三日、午前八時より午后四時まで、松代公民館で農業技術の改善、品種の改良、質の向上、増産向上を目的として農産物品評会を例年の通り開くことになった、同斯会発展のため農家の方々を始め、各種組合、団体より時に御協力ありたいことと、主催者側は要望している、細部、出品の要領は左の通りです

協力 あなたも!! わたしも!! そろって出品いたしましょう!

一、受附 十一月一日午后一時より二日午前中、(於公民館)
一、展覧 十一月三日午前八時より午后四時まで
一、即売、当日係員にお問合せ下さい(卸売はいたします)

出品の要領

1. 穀 菽 類 五合
2. 葉 菜 類 白菜、かんらん等大形のもの二ケ 野菜(右を除く)、かぶ等のもの七株
3. 根 菜 類 薯類五ケ ゴボー、人参、五本
4. 果 菜 類 南瓜等の大形のもの二ケ 茄子等の小形のもの五ケ
5. 果 実 類 柿 りんご 五合、栗 五合
6. 加工品 手芸品 適宜

尚当日出品物は審査の結果優良と認むるものは賞品を贈ります、
出品の返済(即売しないもの)は十一月四日午前中です、

高等学校松代分校の発足について (4)

柳 貞 郎

かくの如く勤労者に対する教育機関が設備されておっても その課程、例へば夜間の課程より定時制の課程を終了しても社会のそれ等に対する取扱ひに差があったり又、資格に違ひがあったりするようでは完全なる教育の機会均等とは言はれないことになる(茲に資格と言うのは(イ)大学への入学資格(ロ)大学への入学順位(ハ)相互間の転校というようなことを指すのである) 兎に角高等学校の課程を終了すればそれが全日制の課程であろうと夜間の課程であろうと、定時制の課程であろうとも資格も同じく、又それら終了者に対する取扱ひも同じいと云う建前でなくてはならぬ 待遇が同じく、又資格も同じいとしたら その教育は同等の実質を備へたものでなければならないことは当然である 甲の高等学校終了者は此の位の実力を持っているが乙の高等学校ではその半分位の実力しか持っていないというようなことでは同等の資格、待遇を与へるということはできない、又勤労青年諸君の働いているのだから少し位教育内容が低度であっても対等の資格を与へてもいいではないかというような考へも起り得るかも知れない、資格だけ同等としても その内容が劣るとしたらその資格は有名無実のものとなること明らかで あって大学への入学試験の際必ず失敗するだろうし、又社会に出た場合その取扱ひが差別されることは当然なことである 新制高等学校においては夜間の課程でも定時制の課程でもその教員数、教員資格、施設設備 教育内容、教科課程、卒業条件等すべてに亘って通常の課程と同等のものでなければならないということになっているのであるが事実上の問題として、これは容易ならぬことであって社会一般の深い認識と協力がなければ到底達し得られることではない 次に前記教育制度は男女共学を認めているのであるが財政的余裕の少ない町村の義務教育機関乃至新制高等学校は男女共学として左程経費を要さないものと考へられる 教育内容からすれば男女の差別は完全に徹底されていて教科課程も教科書もすべて同一で、従来のように中学校の数又は高等女学校の数よりも教育程度が高いというようなことはなく又女子教育の大半を占める(続)

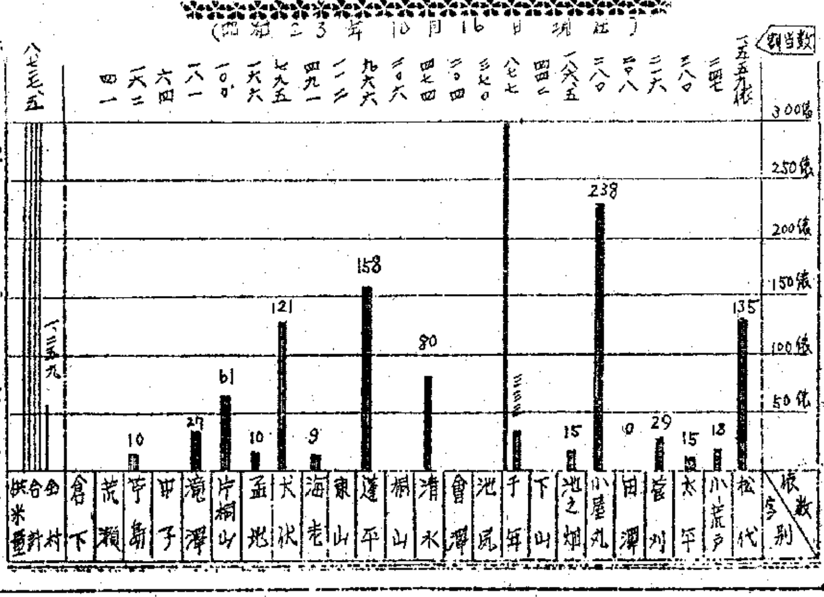
早期供出に奨励金
供米は早く完納いたしましょう
超過供出は三倍価格

松代村食糧調整委員会
供米成績(10月16日現在)発表

グラフの見方(上部の数字(例一五五九俵)は供米割当数です ■線の上の算用文字は供出した数量です)

本村の供米の現況

(昭和23年10月16日現在)



註 甘藷の表はP2にあります、グラフの見方は右表と同じいです

供米に対する成績表は毎号本欄にて発表します
但し食糧関係の関係にて調査上稍おくれることもありますから諒承下さい。

油脂原料集荷斡旋いたします

松代村農業協同組合
松代村森林組合

今回県農業協同組合より油脂原料左の通り配分がありましたが油脂原料は農家の現金収入を増すと共に副業奨励の見地より農業経営の改善に資する所が多大なるものと認め本村でも左の集荷機関で取扱ひますから多く出荷して下さい。

一、買上價格及還元条件

種子名	単位重量(貫) 一斗に付	買入價格(円)	還元食用油	石鹸(混濟)	集荷機関	備考
ヒマ	二・二	六〇〇	三九	三〇	農	一般採種用
ヒマワリ	二・〇	三〇〇	三六	一五		菓子原料も含む
エゴマ	二・三	一〇〇〇	一一五	三〇	組合	還元物資は
南瓜の種	二・〇	三〇〇	三五		合	二割を限度
椿の実	二・五	六〇〇	一・二	三〇	森	として三分
黒ウルシの実	一石貫に付	七五〇	ローソク一五本	三毛	林組	は現金支払
山ウルシの実	〃	五〇〇	ローソク一〇本	二五	合	とす

二、代金ー集荷機関の買入は現金取引とす

三、品質ー各原料共完熟のものと外殻を除き乾燥は保存に差支ない程度とする

四、買入價格ー集荷機関の手数料として四〇円としこれを差引たる額を各実買入價格とす

五、還元物資は出荷と同時に困難と思はれるから還元品支給時は公價にて一石食油は一升當り二〇〇円の割にて現金前渡をなし後日現品と引換へるも差支ないこと

六、出荷の際、最寄機関に現金買上。食用油還元。石鹸還元の何れを希望するか申出ること

七、本村の取扱は十一月二十日迄とす。

随想　県都市を観て

以来新潟市へ数度行ったが行く毎に活気づくかと思はれる。戦争中勿論終戦后も姿をみなかった果物、蔬菜類はいつの間にか所せまい迄に自由販売として陳列されている。特に目につくものは主食たる麦、小豆等を原料とした菓子類の自由販売品である。これ等の商品は何処から如何にしてか。その他瀬戸物より各所雑品、衣類、最近は又衣服物が始めて手に入る様になった。金さへあれば手に入らないものはないと云へるだろう。

各商店は店舗の装飾に、陳列品の整理に殆んど競争のようである。県都新潟市であるからと見れば柏崎、高田も皆然りである。値段が高く買へないと雖、日本が丁度病気の癒る様に日一日と苦しさや痛みが去るように復興していくのではないかと喜びを感じるものがある。

何も我々農民は、これら都市の復興に物資の出廻りに対し「対岸の火災視」していてよいであろうか。供出の匿蔵を図り一升二升の主食のやみ売り位では到底追いつかない。農業経営に、農家経済に根本的に検討を加へる必要があると思う。

十一月から砂糖抜きの二合七勺の配給である。いつまでも柳の下に、ドヂョーはいない。

物と金とは再び都市へ集中するとみられる。

十・十六　山賀生

十月の定例村會

本年度の村民に交付する国庫交付金の分配額は一千八万円と決定する旨地方事務所長よりの通知に接し、村当局は直ちに実行予算の編成に取りかかった。諸条例の改正とも本村会に提出する運びとなった模様であるが村会は会期二日、多分二十五日頃になるだろうと当局は云っている。

社會悪一掃に御協力願ひます

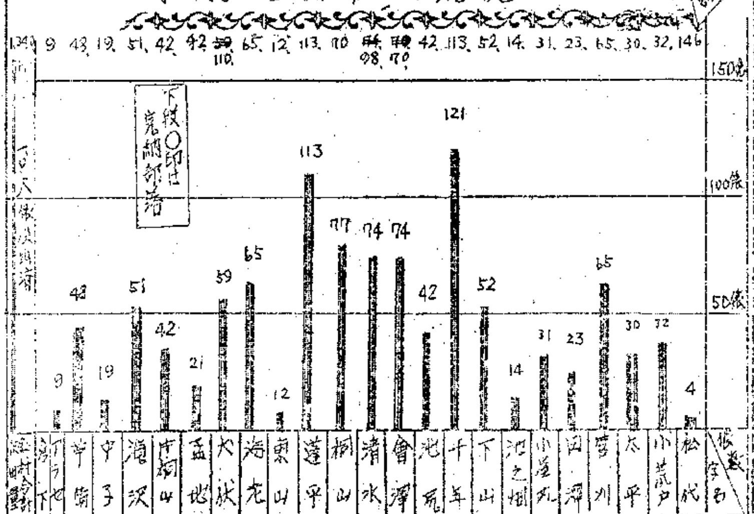
—松代警部補派出所—

皆さん今更申述べるまでもなく警察の仕事は皆さまの生命身体財産の保護と犯罪の捜査及び被疑者の逮捕及び公安の維持となっているのであります。この仕事は今日の社会状勢下に於ては警察のみの力で到底完全に達することは出来ないのであります。昔から医者坊主必要は[illegible]程その国の社会は平和だという諺もあります。何時の世も同じく悪い者の一掃は僅かの警察の力では不可能であり国民一人々々の協力が犯人一掃の原因になるのであります。近頃は常習犯人、脱獄、殺人等も捕へて検挙が益々多くなる事は国民の協力がある事によるのであります。

最近では殺人強盗の外に[illegible]の窃盗、農業会やブローカーの悪質経済犯罪が発生し一部は[illegible]となっている状態であります。警察は何れの公僕であるが決して悪いことをする人間は何処の市町村へ行きましても僅かのものであります。この僅かの者を一掃するには是非その市町村に在住する人々の御協力を願ひたいのであります。一番事情が判り御協力を願ひ問題は早く解決するもので悪人に協力するか善人になるか考へる余地はありません。之正しく強く明朗に生きてゆくことにお互ひ今日心がけて社会悪の一掃に努めて行くならば、やがて平和日本の再建も近きに在ることでありましょう。何時の世になっても同じく法を守らぬ国民は野蛮人という他ありません。民主主義下の国民は新しき法の遵守が先決です。悪いことをせぬよう、お互ひに注意して下されい。共に共に社会悪の一掃に御協力願ひます。

最后に従来の警察に対する考へ方は一般に警察へは悪いことをした者が出入りする処だとの観念を一掃され誰でも又何人でもお出で下され。共に共に語り共に協力して明るく犯罪を犯したということのないよう願はれば幸甚と思ひます。

本村甘藷供出現況（10月16日現在）



中学校建築許可済となる

清水校は八月九日附、松代校は十月五日附、孟地校は十月八日附を以て夫々許可となった。建築状況、中間報告に地方事務所へ出所した山賀主事は次のように語った。三校とも許可となった、新潟の朝日の各新聞に闇建築と報導されたため学区民各位には心配もあったらしいが、心配の必要はないから工事の進捗を図り降雪前に両校出来るよう協力して戴きたい。補助金は事業費、営の費設備費等合算して第二四半期分は六十七万五千余円の指令に接した。

傳説・七十五日の長生き

初物を食べると七十五日の長生と昔から云われているが、何故か初物を食べると七十五日の長生きするのか、その由ってくる謂は何か。昔、石川五右ェ門が太閤秀吉の千鳥の香爐を盗み去らんとして捕えられ、今でいう死刑の宣告を受けた。時に太閤と石川は初茄子の初物で好物であった。その頃故五右ェ門に「その罪は到底許さないが、君が願うことがあったら一つだけきいてやろう」と言った。五右ェ門は「初茄子を食べて死にたい」と申し出た。太閤はその位のことであったらと引受けて、家来に命じて直ちに播種した。茄子は播種してから実を結び、やがて五右ェ門の最后の食膳に添えるまで七十五日かかったという。つまり五右ェ門は七十五日その初物のおかげで七十五日間の長生きをしたわけである。初物を食うと七十五日の長生きとは、こんなことから出た。勿論真偽は知る由もない。五条河原に引き立てられた石川氏の浜の真砂は尽きるとも盗人の種は尽きまじと云ひ残したという。その数は倍加する今日此の頃[illegible]